

2024年3月16日(土)

老球の細道782号

福島ファイヤーボンズ試合最高観客人数達成！！

会津バスケットボール協会 室井 富仁

3月9日(土)10日(日)須賀川アリーナ「円谷幸吉メモリアルアリーナ」で行われたB2リーグ第25節、福島ファイヤーボンズ対越谷アルファーズの試合は連日3,000人を超える観客が入場し、10日は遂にボンズ史上最高の3,078人を記録した。私はこの試合にゲームダイレクターとして関わり、バスケットボール人気の隆盛を感じさせられた。

福島県内で3,000人以上の観客が入ったバスケットボールの試合は、1996年福島工業に渡邊拓馬選手が、能代に田臥勇太選手がいた頃に福島あづま体育館で行われた東北高校選手権大会以来であろうか。ボンズが結成されてからも1,000人以上が入れば御の字で、あいづ体育館や猪苗代カメリーナで行われた時などは1,000人にも満たない時があったことを思うと今回の入場者数は驚くべきことである。

プロバスケの試合はハイレベルのゲームやスター選手の有無などによる話題性で観客数は影響される。今回は歌手大黒摩季のショータイムも大きく影響している。試合前、ハーフタイムに行われた大黒摩季のオンステージは多いに盛り上がり、かなりの数のペンライトがアリーナ中に輝いていた。プロスポーツはこのような演出も重要である。

映画スラムダンクが世界中で話題になり、その映画のエンディング曲「あなただけ見つめる🎵」を歌う大黒摩季がコートに立っているのがファンにとってはたまらなかつたろう。彼女はショータイムだけではなく、チアダンサーにも交じってボンズの応援をし会場を多いに盛り上げてくれた。そのせいかゲーム自体も接戦の痺れるゲームが展開された。

ボンズのホームコートである郡山総合体育館が5,000人収容できるアリーナになるために改修工事が始まったらしい。B1のゲームをするためには、それだけたくさんの観客席を確保できなければならない。そしてアリーナの天井にはリアルタイムでプレイが見られるオーロラビジョンも必要となる。県内にも本物のアリーナができるのか。

ところで、福島と越谷の両ヘッドコーチは福島県出身で、ボンズの栗原氏は日大東北高校、越谷の安齋竜三氏は福島工業高校で、二人とも高校時代から名選手で県大会優勝を経験し、大学、実業団時代も活躍し日本代表などのキャリアを積んでいる。小、中、高校時代と福島県でバスケットボールを頑張った人たちがプロのコーチになって福島県で試合をするということは感慨深いことである。いつの日か会津出身の上杉翔氏(現レバンガ北海道アシスタントコーチ)がどこかのチームを率いてあいづ体育館のコートで指揮を執っている姿を見たいものである。この時の試合のハーフタイムショーは「藤あや子」にお願いしたい。

試合が終わった翌日、長崎の山崎純男先生から久しぶりに電話が来た。同じ日に郡山で行われた県中地区講習会についての問い合わせだった。久しぶりにバスケ談義をした。80歳を過ぎて大病をしても、いまだに中学校のコーチを務め、審判までするという。私は「あいかわらずモンスターですね」と言ったら喜んでくれた。私の生涯現役コーチの目標である。